

第7回 共生社会被災者支援の会

(がんばろう! つばさネットワークとの合同事務局会議を含む)

議事録

日時 2011年5月23日(月) 午後6時30分から

場所 梅田サテライト 114号教室(北新地駅真上、大阪駅前第二ビル6階)

参加者 柏木宏(教員)、阪野修、坂口一美、尾崎力、新家潤子、前川武志、岩山春夫、後藤陽子

(がんばれ! つばさネットワークより)

藤井伸二、松野雅一、その他つばさ高校の教員3名

1) 会計報告(前川・阪野)

◆ 支援金の状況

設立時から現在までの812,698円の支援金があった。そのうち、5/2~5/5に実施された気仙沼での北摂つばさ高校とのボランティア活動においてかかった327,646円の諸経費を差し引くと、残高485,052円となった。

◆ 会員の現地派遣に要する費用について

今回の気仙沼での活動を実施するにあたり、現地での調査並びに各関係者との調整のために坂口氏が費やした費用(交通費ならびに通信費等)を概算すると、約20万円以上となることが判明し、坂口さんに20万円を支払うことを決定した。また、阪野さんの交通費についても実費に相当するものを支払うことになった。

その他、会員の現地派遣に要する費用についての基準について、旅費に関しては原則として実費弁済にするが、その一部を会に寄付する意思が示された場合、会として受け取ることにした。

2) 今後の活動計画について

A) がんばろう! つばさネットワークの活動計画について

がんばろう! つばさネットワークでは、5/2~5/5に実施した活動について、共生社会被災者支援の会の企画・折衝・事務局機能との結合により大阪からの支援をアピールできたうえに高校生にも達成感を与え、高校生活への励みにもなったと賞している。このような今回の活動をもとに今後の活動計画として以下のような選択肢があげられている。

◆ 2度目のバスパックツアー

つばさネットワークの金銭面において実施可能であるが、日程確保および活動内容を定める際に現地との折衝に当会の支援が不可欠であり、多大な労力を要する。

◆ 義捐金の募金のみ

労力的に軽微であり北摂つばさ高校のPRにもなるが、何かを実施するための義捐金集めでないと生徒のモチベーションが下がるため長期的には困難である。

◆ 大阪への招聘

気仙沼に行けなかった生徒の参加が増え学校全体で対応し易く、支援金・義捐金活動の目的も明確になるというメリットがあるが、先方の都合や金銭面や心身面で可能かどうかという問題がある。また、宿泊所として青少年の家やユースホステル、ホストファミリーがあげられ、実施時期としては茨木で開催される祭の時期にあわせて8/4～8/7という日程で、先方に提示し、意見を聞くことになった。先方の学校やPTAを動かすためにこれまでの活動実績と企画案を送ってほしいと先方から要望があり、今回の話し合いをもとに、藤井さんが企画書を作成、現地との交渉は、当面、坂口さんが行うことになった。

B) 共生社会分野・共生社会創造領域の研究活動とリンクによるゲスト招待、研究会、シンポの開催

◆ 都市研究プラザとの話し合い

都市研究プラザのほうで復興支援のためのリエイゾンを築くという計画案があり、具体的な活動内容について情報交換し連携可能かどうかを探るため、5/26(木)に文化交流センターにて内田先生と話し合いを行なう予定。

◆ 守屋氏の大阪への招聘

守屋氏は現地の復興のために屋台村を立ち上げようと尽力しているが、被災者への過剰な負担などにより困難な状況にあり、屋台村の計画が延びる可能性がある。

来阪に関して守谷氏から7月中旬くらいの日程希望があり、来阪の際に実施する内容としては屋台村のプロモートとなるような勉強会やシンポジウムの実施や有力者への訪問等が案としてあげられた。ただし、シンポジウムや研究会以外については守屋氏の要望を踏まえて検討する必要がある。

守谷氏の来阪日程が7月中旬になることにより、NPO法人ネットワークオレンジの小野寺氏の来阪が6月下旬になる予定。

守屋氏、小野寺氏の来阪の調整は、当面、坂口さんが行う。

以上、文責 後藤